

徳島県教育委員会は、徳島県文化財保護審議会に対して、以下の事項を諮問した。

諮問事項

(指定申請文化財)

種別	名称	員数	所在地	所有者及び管理者
有形文化財 (歴史資料)	板東俘虜収容所関係資料	300点	徳島県鳴門市大麻町 桧字東山田55-2	鳴門市 鳴門市ドイツ館
有形文化財 (絵画)	蜂須賀正勝画像	一幅	徳島県徳島市徳島町 城内1番地の8	徳島市 徳島市立徳島城博物館
有形文化財 (考古資料)	カネガ谷遺跡出土品	90点	徳島県板野郡板野町 犬伏字平山86番2	徳島県 徳島県立埋蔵文化財総合センター

概要

1 板東俘虜収容所関係資料（鳴門市ドイツ館）

「板東俘虜収容所」は第一次世界大戦期に鳴門市大麻町、当時の板野郡板東町に造られた俘虜の収容施設で、ドイツの租借地であった青島で日本の捕虜となったドイツ兵のうち、約1000名を収容したもので、大正6年（1917）から大正9年（1920）まで使用された。所長は松江豊寿陸軍中佐（1917年以後大佐）で、俘虜に対して人道的かつ寛大な処遇をしたことや、ベートーヴェンの交響曲第9番が日本で初めて全曲演奏されたことで有名な収容所である。収容所内では様々な生産活動や芸術文化活動が行われ、収容所内の印刷所では「Die Barache」（ディ・バラック）と呼ばれる新聞をはじめとする印刷が行われた。資料の多くは帰国の際に持ち帰られたが、昭和35年（1960）に地元住民による「ドイツ兵の慰霊碑」清掃活動が報じられたことがきっかけで、資料の寄贈が始まった。

本資料は多数ある関係資料のうち、鳴門市の資料整理により板東俘虜収容所で製作されたことが明確である印刷物に限定されており、新聞や書籍をはじめ、コンサートや演劇・スポーツ等のプログラム、絵はがきや切手が含まれている。

現在、本資料は鳴門市ドイツ館で展示および収蔵され、適切に管理されている。

2 蜂須賀正勝画像（徳島市立徳島城博物館）

「蜂須賀正勝画像」は天正14年（1586）5月22日に大坂で病没した蜂須賀正勝の遺徳を偲んで嫡子家政が画工に肖像を描かせたものである。作者は不詳である。肖像の上部には南禅寺の前住鍊甫宗純が天正14年（1586）6月1日付で書いた画賛がある。保存状態は良好とは言えず、折れ皺や退色があり、画賛の中央部は判読が困難な状態になっているが、徳島市教育委員会の行った赤外線照射によると、肉眼では判別できなかった部分に「阿波太守家政公」と施主の名前が記されていることが確認できた。

本作品は平成17年3月25日付で徳島市の有形文化財（絵画）に指定されており、現在は徳島市立徳島城博物館の収蔵庫で適切に保存管理され、年に1回程度公開展示をしている。

3 カネガ谷遺跡出土品（徳島県立埋蔵文化財総合センター）

当物件は、四国横断自動車道（鳴門～津田）の建設に伴い、平成12年度に発掘調査された鳴門市大麻町萩原字カネガ谷に所在するカネガ谷遺跡の出土品である。

カネガ谷遺跡は、阿讃山脈南麓の標高79～119mの尾根上に位置しており、調査の結果、弥生時代後期初頭の高地性集落であることが判明した。集落は、防御施設と見られる、高さ約5m、幅約5mの段状遺構で囲まれており、朝鮮半島産の銅鏡・鉄斧の他、大型の石鏃、石製・土製の投弾等の武器が多く出土している。本県では、数少ない防御施設を伴った高地性集落として重要である。出土品は徳島県立埋蔵文化財総合センターで保存・管理されている。